

歴史的市街地における観光周遊と消費行動に関する基礎的考察－宮島を事例として－

伊藤 雅¹

¹正会員 広島工業大学准教授 工学部都市デザイン工学科（〒731-5193広島市佐伯区三宅2-1-1）
E-mail:t.itoh.sn@it-hiroshima.ac.jp

本研究では、歴史的市街地における観光周遊施策の立案のための基礎的知見を得るために、歩行者中心の観光地を形成している宮島を事例として、観光客の観光周遊と消費行動の実態を明らかにした。宮島に来島した観光客を対象に、島内の訪問施設、施設での滞在時間と支出額、個人属性についてアンケート調査を実施し、一部の調査対象者にはGPSロガーを携帯してもらい周遊軌跡についても把握した。

来訪客の属性としては、初めての訪問という遠方の来訪客が多い一方で、約4割が繰り返し来訪している地元客（広島県内）であった。滞在時間の平均は3時間29分、1人当たり平均支出額は3,525円となっており、比較的滞在時間が短く、土産物の購買が中心の滞在特性であることが分かった。また、GPSロガーデータに基づく平均移動距離は3708mであったが、多くのサンプルは2000～3000mの距離を2～3時間で周遊するパターンとなっており、滞在時間と消費を高めるための施策が必要である課題が浮かび上がった。

Key Words : tourism, historical site, travel behavior, consumption behavior

1. はじめに

世界遺産のような歴史的資産を抱える地区においては、歴史的な環境の保全と観光地としての活性化の両立を果たす必要がある¹⁾。しかしながらモータリゼーションへの対応のために自動車の通行を許して、歩行者との混在が問題となり歴史的な環境を損ねている事例が見られている。他方で、自動車の規制が観光地における商業活動に悪影響を及ぼすという懸念が示されることもあり、歴史的環境の保全と観光地としての商業活動の両立が大きな課題となっている。

本研究で対象とする宮島は年間約350万人が訪れる観光地²⁾で、フェリーで島に渡る必要があることから、モータリゼーションからは隔離された形となっており、いわば歩行者空間を中心とした観光地が形成されている事例とみなすことができる。しかしながら、宮島においては歩行距離が長いことから高齢者や障がい者に対する移動支援の必要性や、観光客数の増加にもかかわらず観光消費額が伸び悩んでいるといった課題を有している。

そこで本研究では、歴史的市街地における観光周遊施策の立案のための基礎的知見を得るために、歩行者中心の観光地を形成している宮島を事例として、観光客の歩行距離と消費行動の実態がどのようになっているのかを把握することを目的とするものである。

2. 調査の概要

宮島に来島した観光客を対象に、島内の訪問施設、施設での滞在時間と支出額、個人属性についてアンケート調査を実施した³⁾。また、試験的にGPSロガーを携帯してもらい周遊軌跡を記録するサンプルも加えた。調査期日、サンプル数等は表-1に示す通りである。

表-1 アンケート調査の概要

調査期日	第1回：2011年10月29日(土) 天候：曇のち雨 第2回：2011年11月5日(土) 天候：雨 第3回：2011年12月4日(日) 天候：晴れ時々曇
サンプル数	第1回：53（うちGPSロガー携帯 10） 第2回：69（うちGPSロガー携帯 9） 第3回：64（うちGPSロガー携帯 9） 計：186（うちGPSロガー携帯 28）
設問内容	・訪問施設名、施設滞在時間、施設での支出額 ・個人属性（性別、年齢、居住地、同行者数、リピート回数）
回答方法	宮島栈橋前広場において観光客にその場で直接記入後回収、または調査票を配布し郵送回収

3. 回答サンプルの属性

調査票を回収することができた186サンプルについて、回答者の個人属性を集計した結果を示す（図-1～図-5）。

回答代表者は、男性が4割強、女性が5割強という割合

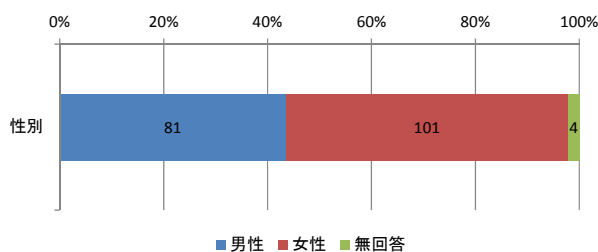


図-1 回答者の属性（性別）

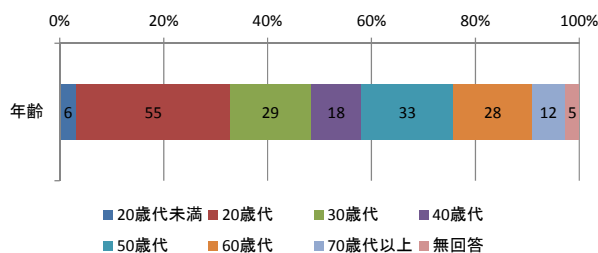


図-2 回答者の属性（年齢）

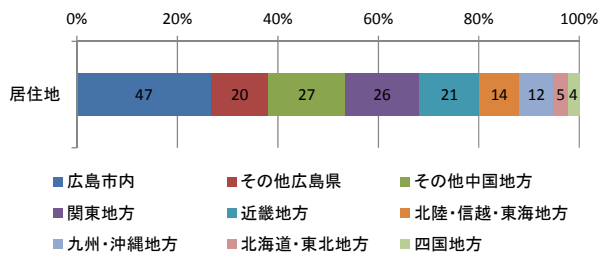


図-3 回答者の属性（居住地）

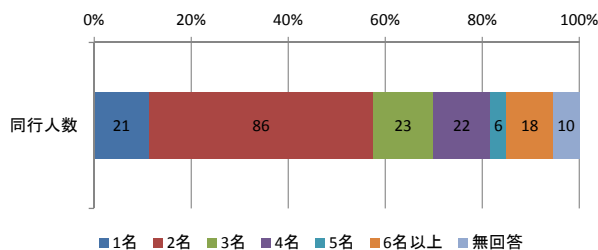


図-4 回答者の属性（同行人数）

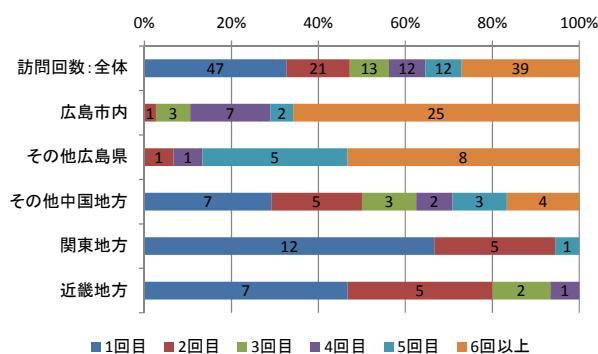


図-5 回答者の属性（訪問回数）

で、年齢層としては20代が最も多く、次いで50代、30代、60代と各世代幅広いサンプルを得ている。

居住地に関しては、約25%が広島市内で、広島県内からあわせて約4割、その他中国地方、関東地方、近畿地方がそれぞれ約15%ずつという分布となっている。

自分を含めた同行者人数では2名が約4割と最も多く、1人だけで来ている人も1割ほどおり、個人旅行の割合が約半数となっている。

訪問回数では、初めての人が約3割と最も多いものの、6回以上というヘビーリピーターも25%程度おり、関東や近畿など遠方からの初来訪者と、広島市をはじめとする地元からのリピーターが多く訪れている様子が見て取れる。

4. 宮島における滞在特性

(1) 概況

宮島における滞在特性の概況を滞在時間、訪問施設、および消費支出の側面について、秋の観光シーズンにおける180サンプル程度の限られたサンプルではあるが、アンケート集計に基づいて考察する。

まず、滞在時間については（図-6）、最も多い時間帯が2時間台で、平均時間にして3時間29分と、わざわざフェリーに乗って宮島に渡って来る割には滞在時間が短いのが実情といえる。

次に、観光施設等の訪問箇所数については（図-7）、2箇所が最も多く、平均で2.7箇所の訪問箇所数となっている。具体的な訪問施設名は後述するが、厳島神社に参拝し、表参道商店街で土産物を購入して帰るという2箇所の訪問パターンが主流となっているのを反映した結果となっている。

また、1人当たりの消費支出額については（図-8）、2000円台と5000円以上が多くなっており、平均して3,525円という額となっている。極力支出を抑えている層と来たからには旺盛に消費する層に二極化されている。

(2) 訪問施設別の滞在特性

宮島に立地する主な観光施設および商店街などの訪問施設別の滞在特性の集計結果を表-2に示す。

最も多く訪問している施設は、表参道商店街と厳島神社となっており、神社参拝と土産物の買い物が多い訪問パターンであることが端的に表れている。また、2011年8月にリニューアルオープンした宮島水族館が第3位の訪問施設となっている。

訪問施設別の滞在時間を見ると、弥山が95.8分と最も長く、ロープウェイなどを利用した登山であることから当然のことながら滞在時間が長くなっている。次いで、宮島水族館の85.0分となっており、展示型施設の特徴に

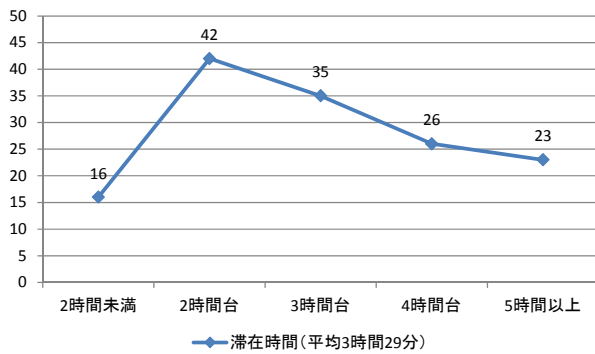


図-6 滞在時間の分布

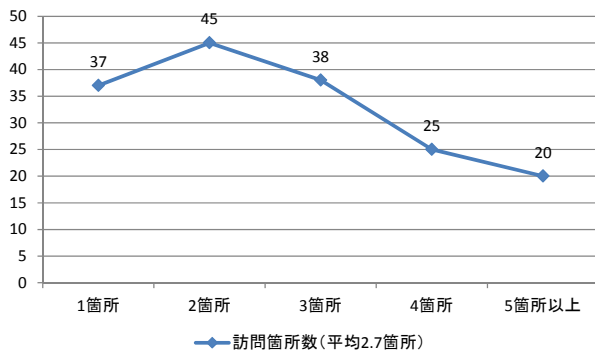


図-7 訪問箇所数の分布

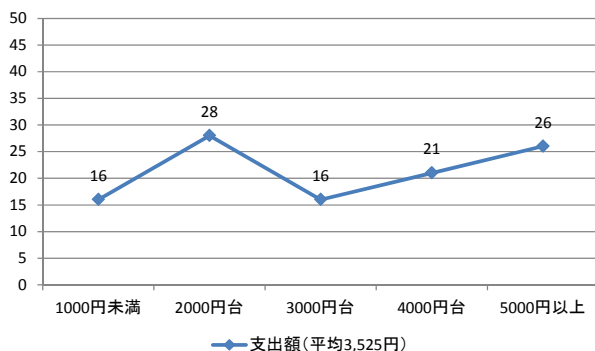


図-8 1人当たり支出額の分布

表-2 訪問施設別の滞在時間と支出額

訪問施設名	訪問サンプル数	平均滞在時間(分)	平均支出額(円)
表参道商店街	132	40.4	2,589
厳島神社	102	45.9	766
宮島水族館	46	85.0	2,221
五重塔	36	17.3	1,693
もみじ谷公園	31	22.1	1,513
千畳閣	21	25.3	698
大願寺	19	10.6	136
弥山	13	95.8	1,750
大聖院	10	32.5	3,383
海岸通り	10	34.4	839
町家通り	9	42.2	1,228
清盛神社	8	10.7	1,680
平均値	-	42.8	1,812

より滞在時間が長くなっている。訪問数が多い厳島神社と表参道商店街は、それぞれ40分台となっており、この2箇所での参拝と買い物に移動時間を加えると約2時間で宮島の滞在が終わってしまう結果となる。他の施設への周遊性を高めていかに滞在を長くするかが宮島観光の課題の1つといえる。

施設別の1人当たり平均支出額では、最も訪問数の多い表参道商店街では土産物を購入するために、2,589円と高い単価となっているが、2番目に訪問数の多い厳島神社は766円と客単価は低くなっている。宮島全体として、支出額を高めるためには、宮島水族館のような展示型施設だけではなく、飲食がゆっくりできるような施設立地や誘導の工夫が必要と考えられる。

5. 宮島における移動特性

宮島における移動特性の概況を移動距離、移動ルート of 側面について、GPSロガーを用いた28サンプルの限られたサンプルではあるが、仮説立案的な考察を試みる。

表-3に示す通り、GPSロガーを用いたサンプルの平均総滞在時間は3時間10分と、紙ベースの調査票サンプルの平均総滞在時間の3時間29分とほぼ同様の結果を得ている。総移動距離はGPSロガーにより移動軌跡に基づいて算出することが可能な指標となり、平均で3708mと徒歩以外の移動手段が非常に限られている中でかなり長い距離を移動している。

調査日別にみると、調査日により滞在時間と移動距離

表-3 GPSロガー携帯サンプルの滞在時間と移動距離

調査日	総滞在時間(時間)			総移動距離(m)		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大
10/29	3:07	1:32	5:21	3481	1623	9297
11/5	2:16	1:22	3:10	2078	1623	2717
12/4	4:08	1:32	6:31	5591	2242	9230
全体	3:10	1:22	6:31	3708	1623	9297

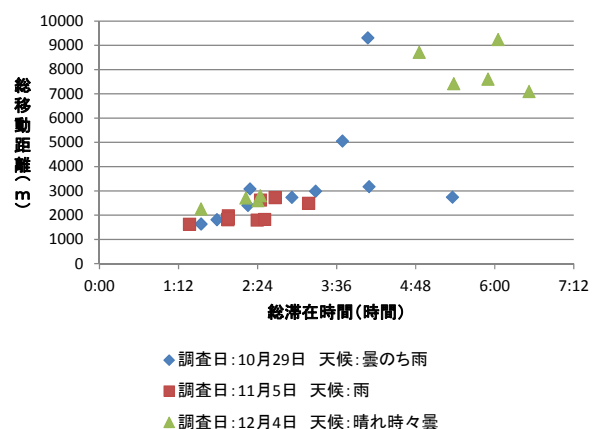


図-9 総滞在時間と総移動距離の関係

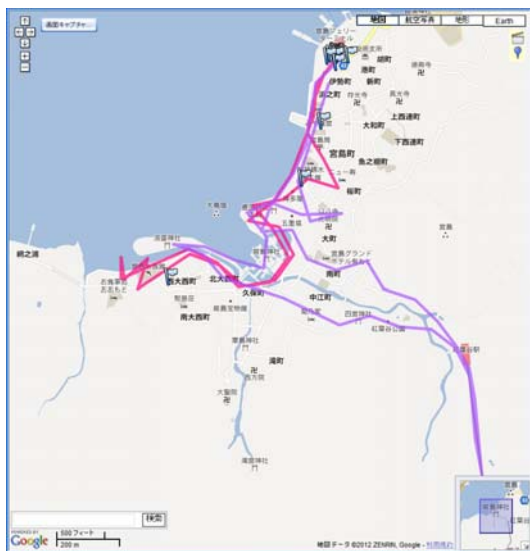


図-10 周遊軌跡の一例

が大きくばらついているのが見て取れる。例えば、11月5日の調査日は天候が雨であり、厳島神社あるいは宮島水族館のみの訪問となり、平均滞在時間2時間16分、平均移動距離2078mという値となっている。

一方、ロープウェイ等を利用して弥山へ登山をすると総滞在時間が5時間程度、総移動距離も8000m前後となり、天候が良く、弥山登山を行えば長時間の滞在をすることとなる。

しかしながら、図-9を見るとサンプルの多くは、滞在時間2～3時間程度、移動距離2000～3000m程度の厳島神社と宮島水族館を主な訪問先とした短時間滞在が多く、4時間程度の長めの半日滞在をいかに行ってもらえるかがやはり大きな課題の1つであることが移動特性の面からもうかがえる。

6. おわりに

これまで必ずしも十分に把握されてこなかった宮島観光の周遊および消費の実態について、特定の調査日の限られたサンプルではあるが明らかにした。

来訪客の属性としては、初めての訪問という遠方の来訪客が多い一方で、約4割が繰り返し来訪している地元客（広島県内）であった。滞在時間の平均は3時間29分、1人当たり平均支出額は3,525円となっており、比較的滞在時間が短く、土産物の購買が中心の滞在特性であることが分かった。また、GPSロガーデータに基づく平均移動距離は3708mであったが、多くのサンプルは2000～3000mの距離を2～3時間で周遊するパターンとなっており、滞在時間と消費を高めるための施策が必要である課題が浮かび上がった。

今後はデータ精度の向上のために、GPSロガーを用いたサンプルを増やし、宮島における追加調査を実施する予定である。また、歴史的市街地における観光周遊特性の比較対照として、モータリゼーションの影響を受けている観光地の事例として高野山を取り上げて同様の調査を実施する予定である。

謝辞：アンケート調査の実施に際しては、廿日市市宮島支所観光管理課および社団法人宮島観光協会のご協力を得た。また、調査の実施および分析に際しては、笠原孝秀氏（広島工業大学環境学部地域環境学科平成23年度卒業生）には多大な協力を得た。ここに記して謝意を表する。なお、本研究の遂行に際しては科学研究費補助金基盤研究(C)「歴史的市街地の観光魅力度の向上に資する街路空間の運用指針に関する実証的研究」（課題番号：24611030）の助成を得ている。

参考文献

- 1) 秋山哲夫, 松原悟朗, 清水政司, 伊澤岬, 江守央：観光のユニバーサルデザインー歴史都市と世界遺産のバリアフリー, 学芸出版社, 2010.
- 2) 広島県：2011 年観光客数の動向, 広島県ホームページ, 2012.
- 3) 笠原孝秀：宮島のアクセス交通に関する研究, 広島工業大学環境学部地域環境学科平成 23 年度卒業論文, 2012.

(2012. 8. 3 受付)

A BASIC STUDY ON TOURIST BEHAVIOR IN HISTORICAL SITE — A CASE STUDY OF MIYAJIMA —

Tadashi ITOH

This study intends to grasp tourist behavior in historical site such as Miyajima in Hiroshima prefecture. A questionnaire survey was implemented through autumn season in 2011. Tourist attributes and behavior, such as visiting sites, visiting time, trip distance and consumption amount, were clear from this survey.